

がくがく 令和4年度 楽学プロジェクト ～職業のフロとともに夢を追いかける2022夏～ 講座記録集



主催：楽学プロジェクト委員会 仙台市教育委員会
日時：令和4年7月27日（木），28日（金）
会場：宮城野区中央市民センター

《 目 次 》

はじめに	1
建築家の仕事	2
動物園飼育員の仕事	3
天文台の仕事	4
ファッションデザイナーの仕事	5
医師の仕事	6
フラワーアレンジメント（花屋）の仕事	7
スポーツトレーナーの仕事	8
栄養士の仕事	9
アナウンサーの仕事	10
現役の新幹線乗務員（車掌・運転士）の仕事	11
歯科医師の仕事	12
博物館の仕事	13
弁護士の仕事	14
学校の先生の仕事	15
テレビ局の仕事	16
ウェディングプランナーの仕事	17
航空管制官の仕事	18
水族館の仕事	19
薬剤師の仕事	20
仙台市ジュニアリーダー活動紹介	21
令和4年度 楽学プロジェクト委員名簿	22

はじめに

「楽学プロジェクト」は、「自分づくり教育」の一環として、市内小学校5・6年生と中学生を対象に、夏休みに様々な職業のプロから話を聞き、将来の職業について考える機会を提供しています。

今年度も、7月27日～28日にかけて、働くことの大切さや難しさ、仕事にかける思い等について、体験などを交えながら宮城野区中央市民センターで、第18回目を実施しました。新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、昨年度1日開催だったところを1.5日とし、講座数や参加者数を拡大しての開催となりました。当日は、事前に応募した中から選ばれた市内の小学5・6年生計359名（対前年度比：+122名）が、計19講座（対前年度比：+6講座）に参加しました。

次ページから、19講座における取組や講座の様子、参加児童の思いなどをご覧くださいいただけます。



●過年度の様子等については、仙台市教育委員会HP「仙台市生涯学習情報」をご覧ください。

<https://www.city.sendai.jp/shogaigakushu/kurashi/manabu/kyoiku/inkai/joho/kodomomuke/rakugaku.html>(または「楽学プロジェクト」で検索)



「建築家の仕事」活動紹介

- 講師氏名：江田 紳輔 先生，作山 和輝 先生，本間 亜門 先生，
森 佑季 先生 所属：(株) 関・空間設計

- 参加児童数 31人

講座担当者 沼尾 和弥

(株) 関・空間設計は、仙台市役所上杉分庁舎、四郎丸小学校をはじめとした県内の様々な学校の校舎など、一度は見たことがある有名な建物の設計・建築をしている会社です。今回は4名の講師の方から、建築の楽しさや仕事で大切なことについてお話をしていただきました。

1 建築家の仕事

平成で一番の建築と言われるせんだいメディアテークをはじめ、世界中のいろいろな建築物をクイズ形式で紹介していただきました。その後、設計から建築までの仕事の流れを教わりました。デザイン画や模型だったものが、現実に出来上がっていく様子に、児童の皆さんも感動していました。



2 体験実習

「自分の体の大きさを知ろう」「教室の大きさを測ってみよう」体のいろいろな部分の長さを測った後に、自分たちの体を使い、扉の大きさやコートの大きさなどを測りました。チームに分かれて挑戦。ピタリ賞も出て大いに盛り上がりました。



3 質疑応答から

Q. 苦勞したことやうれしかったことは何ですか。

A. 予算内で良いものを作るために、たくさんの工夫をします。苦勞もしますが、そんな中で施主さんの希望を上回るものを作ることができたとき、うれしさを感じます。

Q. なぜ建築家になったのですか。

A. 小さいころから物を作るのが好きでした。そして、隈さんや安藤さんのような有名な建築家に大きな影響を受けました。

Q. 仕事をする上で、大切にしていることはありますか。

A. 人の話をよく聞くことです。自分の中に、こうしたいという思いがあっても、自分の思いだけでは建築はできません。施主さんや一緒に作る人たちの思いが大切なのです。

4 まとめ

デザインの仕事はとても楽しい仕事です。そして建築した建物は、その後もずっと大切に使用されていきます。みなさんの生活をよりよくできる点に一番のやりがいを感じる仕事です。仕事とは、自分や周りの人の生活を豊かにするための手段です。周りの人を幸せにすることが仕事なのです。「良い人であれ。」周りの人から応援されるような人であってください。

5 児童の感想紹介

○建築するための計画のすごさや正確さ、そして何年もかけて作りあげる集中力がすごいと思いました。 (宮教大附属小 6年生)

○建築家の人たちは、たくさんの人のことを考えながらデザインしてくれていることを知ることができて、うれしかったです。 (八幡小 5年生)

「動物園飼育員の仕事」活動紹介

■ 講師氏名：島田 英里 先生

所属：仙台市八木山動物公園 飼育展示課

■ 参加児童数 21人

講座担当者 細貝 和子

誰もが一度は行ったことのある動物園。そんな動物園で仕事をする動物園飼育員の仕事について、仙台市八木山動物公園の島田英里先生をお招きし、動物園飼育員の一日の仕事やエンリッチメントの考え方などを通して、「働くとは」ということを考えました。

1 動物園飼育員の一日

朝のミーティングから始まる動物園飼育員一日について学びました。子どもたちが考えていた、掃除やえさやりの仕事のほかに、特別な仕事（爪のお手入れや血液検査など）もあると教えていただきました。飼育員の仕事は、①動物の健康を守ること、②動物について知ってもらうこと、③動物について研究すること、だそうです。



また、動物たちの暮らしを豊かにする「エンリッチメント」という方法も教えていただきました。ホッキョクグマにポリタンクを与えて遊ばせたり、「さんせつこん」という棒をツキノワグマに与えたり工夫をして飼育をしているそうです。

2 動物園飼育員への道のり

島田先生ご自身の道のりを例に動物園の種類、必要な勉強、専門学校と大学の違いなどを教えていただきました。同じ動物園飼育員になるにもいろいろな方法があるとわかりました。



3 質疑応答から

Q. この仕事をしていてつらいこと・大変なことは何ですか。

A. もちろん動物が死んでしまった時です。自分の知識や経験不足ではなかったかと思ってしまう。また、大変なのは体力がいること。夏は暑く、冬は寒いです。また、動物特有のにおいもきついです。

Q. うれしいこと、楽しいことは何ですか。

A. 動物が生まれたときはもちろん、動物について新たな発見をした時です。もちろん、動物園に来てくれた人の反応もやりがいの一つです。

4 まとめ（「働くとは？」働く理由はそれぞれ）

島田先生は、「働く理由は人それぞれ。自分が働くときに何を大切にしたいかを考えることが大切。動物にかかわる仕事はたくさんある。その仕事への就き方もたくさんある。」とお話してくださいました。「飼育員になることも難しい…。だけど、続けるのも大変。でもやっぱり毎日動物の飼育をすることはとても楽しい！」とのお話に、動物が大好きな子どもたちの眼がキラキラしていたことが印象的でした。

5 児童の感想紹介

○動物のこと、動物園飼育員のことをいっぱい知りました。もっと、この仕事をしたくなりました。

(旭丘小 5年生)

○動物園の仕事は楽しいこともあるし、大変なこともあると分かりました。(南光台小 5年生)

「天文台の仕事」活動紹介

■ 講師氏名：千田 華 先生 所属：仙台市天文台

■ 参加児童数 17人

講座担当者 門脇 駿

仙台市天文台でプラネタリウムの解説等をしている千田華先生をお迎えし、「天文台の仕事」について学びました。天文台での仕事内容の説明をしていただき、千田先生が職業に就くまでのご経験や仕事への思いをお話していただきました。参加した受講生17名は、熱心に耳を傾けていました。

1 天文台の仕事

天文台で働く人や仕事内容について教えていただきました。展示やプラネタリウム業務だけでなく、観測業務や資料収集、大学や関係機関と連携した業務など、多くの仕事があることを知ることができ、子どもたちは、熱心にメモをとりながら聞いていました。



2 天文台の仕事体験

天文台の仕事体験として、V I（ビジュアル・アイデンティティ）の作成に取り組みました。仙台市天文台では、「宇宙を身近に」というミッションを掲げています。子どもたちは、地球と土星を題材にして、日常の何かに例えました。地球をシャボン玉に例える子や土星の環をドーナツに例える子もあり、自分の発想力を生かしたV Iの作成に取り組みました。



3 質疑応答から

Q. 千田先生が今後やってみたいことは何ですか。

A. 以前ブラックホールの研究をしていたので、仙台市天文台のひとみ望遠鏡を使った観測をしてみたいです。



4 まとめ

仙台市天文台では「宇宙を身近にする」ための仕事をしています。天文台で働くのに必要なことには、天文や宇宙の知識や物理、数学の知識、コミュニケーション能力など様々ありますが、一番大切なことは「星や宇宙が好き」という気持ちです。

5 児童の感想紹介

○とても興味深いお話ばかりで、時間を忘れてしまうほど楽しかったです。(北仙台小 6年生)

○私も将来、星や宇宙に関わる仕事に就きたいと思いました。(幸町南小 6年生)

○天文台の人はいろいろな部署に分かれていることを初めて知りました。(南小泉小 5年生)

○私も宇宙を身近に考えて生活しようと思います。(八乙女小 6年生)

「ファッションデザイナーの仕事」活動紹介

■ 講師氏名：飯岡 智 先生, 久道 優子 先生 所属：宮城文化服装専門学校

■ 参加児童数 13人 講座担当者 畠山 真実

絵を描くことが好きな子どもやファッションに興味のある子ども13名が講座に参加しました。講師の先生方には、ファッションデザイナーの仕事やデザインを描くときの「コンセプト」について教えていただきました。

1 ファッションデザイナーの仕事について

デザインをするときの手順やポイントについてお話をいただきました。デザインをするときは、①環境や社会情勢を考える、②職業や価格にあった服を考える、③実際にデザイン画を作成する、④素材を選びサンプルを作る、⑤サンプルを修正して商品化へ進める、という手順があることを学びました。また、デザインを考えるときには大きさや形、材料などを変えることで、発想が広がっていくということも教えていただきました。最後に、デザイナーになるためには、「デザイナーになりたい」という気持ちと自分の持っている才能をいかに伸ばしていくかが大切であることもお話いただきました。



2 デザインを考える

自由にデザインを考えてみようということで、4種類の形と2色のパーツを黒い紙の上で並べてデザインを考えるというデザイン画の演習を行いました。実際にデザイン画を描けるということもあり、児童たちは描く手が止まらないくらい集中して演習に取り組んでいました。



3 質疑応答から

Q. 持ってきてもらった服の装飾は、いくつくらい付いていますか。

A. 20人くらいの学生で制作したので一人4~5つくらいずつ作っているかもしれません。

4 まとめ

ファッションデザイナーになるためには大変なことも多いけれど、絵が好き、ファッションが好きという気持ちと、自分ができることを積極的に行えるように努力を続けることが大切であることを教えていただきました。

5 児童の感想紹介

○「コンセプト」を決めると、模様や色、形も決まってくることが楽しかったです。

(宮教大附属小 6年生)

○ファッションデザイナーの方が1日に10枚絵を描いていることを聞いて驚きました。

(聖ドミニコ学院小 6年生)

「医師の仕事」活動紹介

- 講師氏名：島村 弘宗 先生 所属：独立行政法人国立病院機構仙台医療センター
■ 参加児童数 14人 講座担当者 高橋 克博

島村弘宗先生は、独立行政法人国立病院機構仙台医療センターで外科医として医療に携わっています。中学生のときに読んだシュバイツァーの本がきっかけで、医師を目指したそうです。

講座では、医師には様々な専門があることやがんの治療法など、実際の手術の映像を交えながら、医師の仕事についてお話をいただきました。

1 医師の仕事とは

医師の仕事には、病気やけがの患者さんを診て治す、病気の原因を調べる、病気にならないように対策を立てるなど、それぞれ専門の役割があります。新型コロナウイルス感染症に関しても、ウイルスの遺伝子を調べてワクチンを開発する「研究者としての医師」が注目されています。

2 がんの治療法

がんは、日本人の死因において一番多い病気です。がんは、何らかの遺伝子の変化によって発生し、血管を伝って転移することがあります。標準的な治療方法として、手術、抗がん剤を用いた化学療法、X線などでがん細胞を壊す放射線療法があり、がんの種類や進み具合によって、治療方法を選択します。講座では、血管を傷つけないようにがんを切除したり、縫合したりしている様子を実際の映像を交えて説明していただきました。



3 質疑応答から

Q. 医師になるためのアドバイスはありますか。

A. 体が資本なので、食事や睡眠など規則正しい生活をするのが大切です。

Q. 医師の仕事を目指すために、どのような本を読んだらよいですか。

A. いろいろな本を読んで、自分で解釈することが大切です。高校生、大学生であれば、今の社会がどうなっているかを学んでほしいです。

4 まとめ

島村先生から「どうしたら夢が叶うか何度も立ち止まって考えてみること」「相手の気持ちを考えてどんな言葉で伝えるか、言葉を大切にすること」「世界に目を向けて世界に通用する医師を目指してほしい」というお話をいただきました。講座を受講した小学生たちは、医師の仕事について、さらに興味、関心を深めることができました。

5 児童の感想紹介

○医師には様々な専門の医師の役割があるのを知り、あまり知られていなくても、大切な役割があることを教えていただきました。(聖ウルスラ学院英智小 5年生)

○私は、医師になるとしたら小児科としかイメージを持っていませんでした。しかし、今日、他の科にも興味を持つことができました。また、先生のアドバイスを基に夢を追いかけたいと思いました。(住吉台小 5年生)

「フラワーアレンジメント（花屋）の仕事」活動紹介

■ 講師氏名：佐藤 由香里 先生 所属：Bargeme（バルジェーム）

■ 参加児童数 10人 講座担当者 針生 真由美

「フラワーアレンジメント（花屋）の仕事」では、Bargeme 代表の佐藤由香里先生を講師に迎え、4人のお子さんを育てながら仕事と両立し、看護助手からどんな経緯でお花屋さんの仕事に就いたのかなど、ご自分の経験と現在に至る経緯をわかりやすくお話しいただきました。

1 フラワーアレンジメント（花屋）の仕事

お花屋さんの仕事は、経営という立場で自分の個性を活かせるお仕事です。店舗のレイアウトや一日のスケジュールも自分で考え実践する事がやりがいとなっています。資格は25歳の頃から様々な資格を取得しましたが、その中で、IFA国際アレンジメントフラワー協会*で取得した講師の資格が活かされています。また、フラワーアレンジメントを作る上で大切にしていることは、お客様の要望に近づけられるようにイメージを詳しく聞き、丁寧に真心を込めて作ることを心掛けています。 (* 現在は、CFDクリスタルフラワーデザイナーズ協会)

2 フラワーアレンジメントの実体験

季節の切り花と葉を使って、実際にアレンジメントフラワーを作りました。花の茎も使用してアレンジメントを仕上げる子どもや、お花に段差を付けてふんわりと優しい印象に仕上げる子どももいました。どのアレンジメントを見ても、すぐにでも商品にできるような素敵な仕上がりとなりました。



3 質疑応答から

Q. お花の仕入れではどのような点に気をつけていますか。

A. ①価格と質のバランス ②生き生きとした元気なお花 ③珍しいお花を3大条件としています。今の時期は、ひまわりやコスモスが大人気です。お花にはそれぞれに花言葉がありますが、綺麗なお花でも真逆な意味もあるため、お花の意味にも気を付けています。



4 まとめ

以前までは違う職種のお仕事に就いていましたが、自分の大好きなお花と一緒にいられることが幸せと気づきました。好きという気持ちが、仕事としての長続きする秘訣です。経営となると責任が重く、足踏みをしてしまいがちですが、色々な事にチャレンジして欲しいです。

5 児童の感想紹介

○講座の中で、花屋さんになるために必要なことを教えてくださいました。お花屋さんへ一歩近づくことができました。来年もこの講座に参加したいと思っています。(片平小 5年生)
○将来お花に関わる仕事ができたら、お花の魅力を沢山の人たちに伝えたいです。お花屋さんになれるように頑張りたいです。(長町南小 5年生)

「スポーツトレーナーの仕事」活動紹介

■ 講師氏名：江刺 善之 先生 所属：アスリートジャパン Esashi

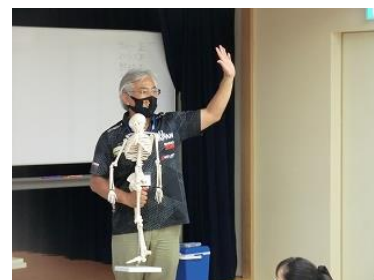
■ 参加児童数 19人

講座担当者 村田 智朗

本講座では、サッカー元日本代表選手やリオオリンピックで日本バドミントン界初の金メダルを獲得した選手と関わりがあるアスリートジャパン Esashi の江刺善之先生を講師に迎え、実際に体を動かす活動も交えながら教えていただきました。

1 スポーツトレーナーの仕事とは

輝かしく活躍するスポーツ選手。その躍進の裏にはスポーツトレーナーがいます。海外では、選手が活躍すれば、監督・コーチと同じくらい高く評価されています。現在、日本スポーツ協会に所属しているスポーツトレーナーは約430人います。選手のために色々なことをしますが、選手の話聞いてあげることが大切で、指示をするのではなく、相談して選手の悩みの解決に向かう手伝いをするのがとても重要です。



2 スポーツトレーナーになるためには

学校に行ったり、講習を受けたりして資格を取ります。勉強する内容の一つに解剖学があります。骨の模型を見せてもらったり、実際に自分の体を動かしたりしながらその勉強に触れさせていただきました。「自分の体を知る」ことはとても重要なことで、普段から気を付けておくべき姿勢についても教えていただきました。また、栄養学も資格を取るために学んでいるそうです。



3 質疑応答から

Q. 楽しかったこと、嬉しかったことは何ですか。

A. 嬉しかったことは、感動をいただけることです。選手から、「優勝しました。」「自己ベストが出ました。」という言葉聞けたり、関わった選手が世界一になったり、感動を与えてもらえることです。逆に、「怪我しました。」という報告があると悲しくなります。



4 まとめ

スポーツトレーナーは、「好きだから」「人のためになるから」という気持ちで仕事をしています。また、「教える人は学び続ける」という姿勢で、常に学び続けて自分を高めています。スポーツトレーナーに大切なことは、選手やチームを明るくするためのポジティブトークです。いつでも明るく、チームの一人一人に声を掛けています。「コミュニケーション能力とポジティブさを磨いてほしいです」と明るくパワフルにお話しいただきました。

5 児童の感想紹介

○ストレッチや、姿勢を正しくする方法を家でやってみたいし、栄養のことではバランスよく食事できるように頑張ってみたいです。(荒巻小 6年生)

○先生はすごく明るくて、話を聞いていてすごく元気が出てきました。これからもスポーツについてもっと知りたいと思いました。(北六番丁小 6年生)

「栄養士の仕事」活動紹介

■ 講師氏名：氏家 幸子 先生 所属：仙台白百合女子大学

講師補助：八島 八重子 先生 所属：尚綱学院大学

池田 綾野さん、小笠原 璃音さん 所属：仙台白百合女子大学

■ 参加児童数 14人

講座担当者 石井 淳史

栄養士の仕事では、仙台白百合女子大学人間学部健康栄養学科准教授の氏家先生を講師にお迎えしました。氏家先生は以前、小・中学校の栄養士を務められていたこともある食事の栄養に関するスペシャリストです。

1 栄養士の仕事とは

氏家先生はお料理好きな母親のもとで育ったそうで、自身も「おいしい料理をみんなに食べてもらいたい」という想いで、栄養士になられたそうです。栄養士とは、私たちがいつまでも健康で元気にいるために、「何を」「いつ」「どれくらい」「どのようにして」食べるかを考える仕事であると教えてくださいました。

また、メニューを考える際、対象者のライフステージや身体状況に合わせて食事の量や形態を変えることなどを教えてくださいました。



2 私は私の栄養士！～お弁当で考える マイ サイズ ランチ～

1日に必要なおよそのエネルギー量と摂取すべき栄養については、1人1人の体格や運動量に合わせる事が大切で、お弁当を作る際には自分に合わせた弁当箱の容量を選び、栄養バランスに配慮した献立を考える事が大切であることを学びました。

栄養バランスを考えた主食や主菜、副菜などの適切な分量についても教わり、尚綱学院大学の八島先生が、分量のバランスを考えながらそれぞれの品目をお弁当に詰めることを実演してくださいました。

また、献立を立てる際には栄養バランスだけではなく、全体の彩りに気を配ることや、旬の食材を入れることをなども大切であると教えてくださいました。



3 まとめ

氏家先生は、栄養士の仕事に就くと、食事の大切さや食事ができるまでについてが分かることを教えてくださいました。また、食べるのが好きな人や人と話をするのが好きな人、自然や環境について関心を持っている人は、栄養士の仕事に向いているということも教えてくださいました。講座の終わりには、「栄養士は食事で人を健康にすることで、人を幸せにする仕事です。食事は人が一生続けていくものなので、栄養士は他者のライフステージのあらゆる場面に関わりがある仕事です。」と、子どもたちに伝えてくださいました。

4 児童の感想紹介

○栄養のバランスやカロリー、成長のことなど、とても勉強になりました。将来、私も栄養士になろうかな、と思いました。妹や弟にお弁当を作ってあげようと思います。

(長命ヶ丘小 5年生)

○栄養士は人を幸せにすることができるのでなりたいたいと思いました。(宮教大附属小 6年生)

○今日話を聞いて、栄養士の資格を取りたいという気持ちがより強くなりました。誰かのためになるのはとてもいいことで、働くのがかっこいいなと思います。(富沢小 6年生)

「アナウンサーの仕事」活動紹介

■ 講師氏名：渡辺 祥子 先生 所属：フリーアナウンサー・朗読家

■ 参加児童数 21人 講座担当者 浅野 佑一

「アナウンサーの仕事」では、司会やラジオのパーソナリティ、朗読家など多方面でご活躍されている渡辺祥子先生を講師としてお迎えし、実演を交えながら教えていただきました。

1 アナウンサーの仕事～発声練習～

「百羽のツル」の朗読で言葉の持つ力、言葉から想像を広げる体験をした後、早口言葉に挑戦しました。子どもたちはなかなか上手に読むことができませんでした。口の動きを鍛える魔法の言葉を伝授していただき、呼吸法、アクセント、イントネーション等、手本をもとに練習に励みました。声の方向性を意識することで、気持ちも相手に届けることができるということも学ぶことができました。



2 アナウンサーの仕事～言葉の力～

ニュースの原稿読みでは、「伝えたい部分の強調の仕方」「意味のまとまりで捉えたものをどのように表現するか」など、一人ずつアドバイスをいただきました。どこが良くて、どこをどのように直したら良いのか具体的なアドバイスをいただけたことで、子どもたちはすぐに上達していきました。「聞いている人とキャッチボールをする感覚が大切」と先生はおっしゃいます。相手に届けようとする姿勢が大切であることを、子どもたちは実感していました。

3 質疑応答から

Q. 自分の力のなさやミスした時に気にしない方法を教えてください。

A. 気にはするものです。しかし、自分の目指しているものがあればそのミスも糧になるものです。

4 まとめ

「言葉は生きる力を引き出す」ことができるもの。だからこそ、諸刃の剣であり、取り扱い注意です。話し言葉は1,500語、その言葉が表す意味は30,000通りもあります。どんな場所で、誰に、どんな言葉を使うかで、言葉は良いものにも悪いものにもなる力を持っています。言葉を大切にすることは周りの人を大切にすることであり、同時に自分を大切にすることにもつながるとおっしゃっていました。最後に、「誰かと比べるのではなく、自分が大切だと思うことに夢中になって取り組むことで夢に近づいていく」とメッセージをいただきました。

5 児童の感想紹介

○夢であるアナウンサーの方の話を間近で聞いて良かったです。

(八幡小 6年生)

○これからの人生に必要なことも教えていただきました。

(大沢小 6年生)

「現役の新幹線乗務員(車掌・運転士)の仕事」活動紹介

- 講師氏名：前川 真 先生, 原田 圭介 先生, 千葉 亮介 先生, 西城 智 先生,
中村 純一 先生, 前田 亮 先生, 永沼 宏行 先生, 大熊 洋史 先生,
大河内 伸剛 先生, 中島 淳 先生, 岩瀬 浩平 先生, 大類 哲 先生,
小松 航介 先生, 原澤 美香 先生, 仁宮 早季子 先生, 大島 佳奈子 先生,
羽根田 勇人 先生

所属：東日本旅客鉄道株式会社 仙台新幹線運輸区

- 参加児童数 32人 講座担当者 奥山 祥彦

日本国内の重要な交通手段であり、世界に誇る技術で作られている新幹線。子供から大人までファンが多い新幹線を実際に動かし、業務を行っている方々に実際の仕事の内容や夢について熱く語っていただきました。

1 新幹線を体験しよう

始めに、会場とJR東日本をリモートでつなぎ、シミュレーターを使って、車掌の仕事の練習をしている様子や、運転席から見える時速320kmを目で見て体験しました。



2 仕事の体験をしよう

ここで「はやぶさ」、「こまち」、「やまびこ」の3グループに分かれ、以下の3つの活動を交代しながら行いました。

(1) 新幹線運転士の仕事

主に映像を見ながら、先生がそれぞれ補足しながら新幹線運転士の仕事の紹介が行われました。新幹線を走行させるのに15秒ごとに予定が決まっています、ずれのないように運行させることに気をつけていることを、実際の運行予定の用紙を見せながら教えてくださいました。

(2) 新幹線車掌の仕事

車掌の仕事は多岐に渡り、実に様々な業務を行っていることが伝わりました。どの仕事も、一つ一つ確認をして行うことが大切だと教えてくださいました。

(3) POS(車内補充券発行機)体験

車掌が実際に使用する手袋を付け、POSのデモ機を使って発券する体験を行いました。ペアの児童が肩をつかんで揺らすことで、実際の車両の揺れを再現しながら体験を行いました。知っている駅まで料金がいくらかかるのか興味深く見ている姿が印象的でした。

3 まとめ「夢」について

仕事でも将来の夢でも、「勇気を出して行っていること、言っていることを否定しない。」という考えが、子供たちの心にも響いたようです。講座の最後に、先生方から夢行きの片道切符をいただき、一人一人に今日の日付の入ったスタンプを押していただきました。講座全体を通しての貴重な体験に、子供たちはうれしそうな表情をしていました。

4 児童の感想紹介

○新幹線のことや夢を諦めないこと、働くことの大切さが分かり良かったです。(片平丁小 6年生)
○小さい頃からこの仕事に憧れていて、改めてこの仕事を目指したいと思いました。

(岩切小 5年生)

「歯科医師の仕事」活動紹介

- 講師氏名：西原 大輔 先生，平田 政嗣 先生，津田 優花 先生，
千葉 桜 先生 所属：一般社団法人 仙台歯科医師会

- 参加児童数 10人 講座担当者 大場 浩太郎

仙台で歯科医院を開業されている西原先生ほか4名の先生を講師にお迎えしました。歯科医師の仕事に関する体験活動や先生の話聞くことを通して、将来への夢や希望を持たせるとともに、職業や働くことへの理解を深めることのできる講座でした。

1【体験実習】歯科医師の仕事体験しよう

① 歯の治療をしてみよう！

歯の模型に『レジン』を詰め、硬化するライトを照射し、虫歯の治療体験を行いました。

② 型を取って模型を作ろう！

顎の模型の型を取り、石膏で模型を作る体験をしました。専用の機械で練った型取りを、固まってしまう前に素早く顎の模型に被せます。そこへ石膏を流し込むと模型の完成です。

2【講話】歯科医師になるために

歯科医師になるためには、専門の大学で学ばなくてはなりません。歯科医師になるための大学の数は少なく、そこで6年間勉強をする必要があります。歯科医師になることがゴールではなく、どのような歯科医師を目指すのかという夢や働くことの意味を考えることが大切だと教えていただきました。



3 質疑応答から

Q. なぜ歯科医師になろうと思ったのですか？

A. 子どもの頃、歯医者に通い、そのときの先生の姿を見て、患者さんを笑顔にする仕事がしたいと思ったからです。

Q. 歯医者の仕事をしていて大変なことはどんなことですか？

A. いろいろな方が患者として来院すること。小さな子からお年寄りまで歯の様子も一人一人違います。その方たちの思いや将来を考えて、よりよい治療を考えなくてはなりません。

4 まとめ

先生も子どもの頃は将来の仕事を何にするか、悩むことがあったそうです。自分の得意なこと好きなことを考え、自分の進みたい道に向かって努力することが大切だと教えていただきました。

5 児童の感想紹介

○西原先生のように、患者さんを笑顔にできる仕事は、とても感心します。(栗生小 5年生)

○ぼくも一生懸命がんばって勉強をして、歯科医師になろうと思いました。(高砂小 6年生)

「博物館の仕事」活動紹介

- 講師氏名：酒井 昌一郎 先生、水野 沙織 先生、村上 聡 先生
 所属：仙台市博物館

- 参加児童数 20人 講座担当者 伊世 貴志

博物館の仕事は、今年度が初めての講座ということでしたが、学芸員の酒井先生と水野先生、指導主事の村上先生は、展示物の大切さや展示の方法などを子ども目線でとても分かりやすく説明されていました。子どもたちも、歴史好きな子が多く、目を輝かせながら一生懸命にメモを取りつつ学んでいました。

1 博物館の概要、展示物の入手・保管・展示方法について

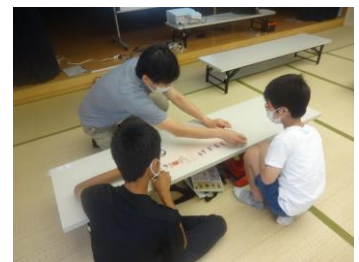
仙台市博物館は、仙台城三ノ丸跡地にあることや、東北地方にゆかりのある資料を集めて展示していること、現在改修中ではあるものの、各学校へ出前授業などを行っていることを学びました。

博物館に展示・保管してある様々なものは、あらゆる場所や人からお借りしているとても大切なものであり、太陽光や湿気、虫害、焼失や損壊などがないように大切に保管しているそうです。また、専門の方の協力のもと修繕や運搬、写真撮影をするなど、博物館以外のたくさんのスタッフと協力して、資料を守り展示してあることを学びました。



2 展示物に触れながら、展示の方法について学ぶ

巻物に触れる活動では、実際に巻物を開いて閉じるという作業を通して、慎重に扱うことの大切さはもちろん、中に描かれている大名行列の様子から、様々な発見をすることができました。また、壁に巻物を展示する方法一つ取っても、どこを中心に見せるのかを考え、観覧する対象者の身長に合わせて高さを調整することが大切とのことでした。



3 質疑応答から

Q. 博物館の仕事のやりがいは？

A. 展覧会や講座などの場で、多くの人たちの喜ぶ表情や言葉に触れることができることです。

Q. 博物館の仕事で大変なことは？

A. 図録や解説などを準備したりすること。資料を調べても答えが出てこないこともあります。

4 まとめ

博物館にある資料は、誰かが「これを後世に残そう」と思い、その思いが何代も何代も受け継がれてきたからこそ、何百年もの間、資料が保管されてきました。そういった思いを大切しつつ、博物館の仕事に興味を持ってほしいと思います。

5 児童の感想紹介

○巻物にふれることができ良かった。博物館の仕事がしてみたいと思った。(館小 6年生)

○土器一つで、その人たちの暮らしや工夫などが分かることが面白い。(原町小 5年生)

「弁護士の仕事」活動紹介

■ 講師氏名：桑原 和也 先生 所属：弁護士法人 A. I. ステップ
野原 顕 先生

■ 参加児童数 20人 講座担当者 阿部 英男

「弁護士の仕事」では、弁護士法人A. I. ステップ所属の弁護士、桑原和也先生と司法修習生の野原顕先生を講師に迎え、弁護士になるための条件、また難しさ、さらには心構えを説明していただき、弁護士の仕事の内容を具体的に詳しく分かりやすく教えていただきました。テレビのドラマの世界でしか分からない弁護士のリアルを、肌で感じた講座になりました。



弁護士バッジ



休憩時間にバッジを見る



実際の弁護士役になる

1 弁護士になるために

弁護士になるためには、まず法科大学院を卒業、または、直接予備試験を受験し合格しなくてはなりません。その後には司法試験を受験、合格者は司法修習生とし1年間研修を受け「2回試験」と呼ばれる試験に合格してやっと弁護士になれます。

弁護士になるためには、作文が得意であること、また人が遊んでいる時も我慢して勉強しなくてはなりません。

2 弁護士の仕事内容

1日のスケジュールを例に、色々なシナリオを想定し具体的に説明していただきました。裁判所の法廷だけでなく、時には示談交渉を行うこともあることが分かりました。裁判では、法廷に立つ前の資料の作成に多くの時間がかかり、法廷では思っていたより短時間で終わることもたくさんあります。

また、相談をよく聞いて不安な気持ちを取り除き、罪を犯した人に対して反省を促すことも弁護士の仕事ということが分かりました。

3 質疑応答から

Q. 弁護士の年齢制限はありますか？

A. 年齢下はありますが、上は何歳でもなれます。

Q. 法廷で検察官と激しく争うことはありますか？

A. 無い訳ではないが、あまりありません。

4 まとめ

人の相談を聞いて悩みを解決し笑顔になって帰ってもらうことが一番の喜びであり、やりがいです。人助けを仕事にしたい人は、弁護士も選択肢の1つです。

5 児童生徒の感想紹介

○弁護士になるまでの大変さや弁護士の仕事について詳しく分かりました。将来、弁護士になりたいとも思いました。
(長町小 6年生)

「学校の先生の仕事」活動紹介

■ 講師氏名：伏見 滋 先生, 高橋 綾 先生 所属：東四郎丸小学校

■ 参加児童数 22人 講座担当者 早坂 孝一

講座前の打合せで伏見先生は、昨年の講座の良かった部分を残しつつ、一方的に大人が話すのではなく、子どもたちが一人でも多く発言して欲しいとおっしゃっていました。また、どうすれば先生になれるかの具体的な話をしつつ、子どもたちが関心を持ちやすい工夫をしながら講座を進めたいとのことでした。昨年同様、朗らかな伏見先生のお人柄と軽妙でテンポの良い話で、明るい雰囲気の中、講座がスタートしました。

1 講座の内容①

普段の学校と同じように時間割表を掲示し、約15分間隔で様々なお話をさせていただきました。学校は授業だけでなく、社会との関わりが多いと強調しておられました。算数や国語の時間では、実際のテストと答案用紙をみながら採点をする「赤ペン先生」の体験がありました。解答した子の気持ちになってアドバイスをしながら丸付けをすることを、楽しみながら体験をしていました。



2 講座の内容②

総合的な学習の時間と題して、「学校の先生の魅力とは何か」について、実際に担任の立場である高橋綾先生からお話をさせていただきました。最初から先生になろうと思ったわけではなく、色々な経験をする中で、人との出会いから先生という職業にたどり着いたそうです。「人を好きになる」「その人との思い出」があって、「今がある」というお話がとても印象的でした。

3 質疑応答から

Q. 先生が怒るときはどのようなときですか。

A. 怒るには理由があること。直って欲しい、良くなって欲しいと思うからです。

4 まとめ

教師にとって最も大切なことは「優しさ」ということに重きをおいた、伏見先生の意図は子どもたちに十分伝わったはずですが、グループ活動では、多くの学校の子どもたちと交流し、相手の発言を聞きながら自分なりに考える良い機会となりました。講座後の感想から将来へのイメージ(夢)の礎になり得た意見が多く見られ、昨年度に引き続き、まさに楽学プロジェクトの意義を体現したすばらしい講座となりました。

5 児童の感想紹介

○人との関わりについて学べた。今後の友達関係に活かしたい。(若林小 5年生)

○いつも発表は苦手だが、発表をもっとしたくなった。先生になりたい。(荒町小 5年生)

○クイズがとても楽しかった。滋先生がとても面白い先生だった。(向山小 6年生)

○元々憧れの先生がいたが、この場でもっと憧れの先生が増えた。(八木山南小 6年生)

「テレビ局の仕事」活動紹介

■ 講師氏名：多田 勇太 先生 所属：東北放送株式会社

■ 参加児童数 14人

講座担当者 勝又 真吾

子どもから大人まで、いつも触れ合う身近なメディアである「テレビ」。そのテレビ放送を制作している「テレビ局の仕事」について、東北放送の多田勇太先生を講師に迎え、スポーツ実況の原稿を読む体験やオリジナルの夢の番組表制作などを行いました。

1 テレビ局の仕事の紹介

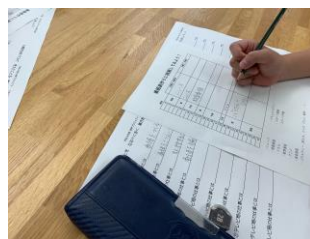
(1) 番組制作について

「どんなテレビ番組を見ていますか」「ラジオは聞きますか」などの問い掛けをはじめ、テレビ局の概要や様々な仕事についての説明を受けました。子どもたちは実際の機器に触ってみたり、使い方の説明を受けたりしながら、興味を持って活動に参加していました。



(2) 番組編成のタイムテーブル作り

子どもたちは「自由に作成していいの?」「ずっとアニメでもいいの?」とつぶやきながら、平日と休日それぞれのタイムテーブルを作成。実際のタイムスケジュールを参考にしながら、「どのような番組がどの時間帯に多いのか。それはなぜなのか。」「どんな世代が視聴し、どんなことに生かしているのか。」などについて、意見を出し合いながら考えていました。



2 夢について

講師の先生より、「阪神・淡路大震災」をきっかけにこの仕事を選んだというエピソードを聞きました。子どもたちは、「東日本大震災」が発生したこの仙台市でも、放送を続けることが人の命を守ること、安全を確認できること、誰かをそっと励ますことなどにつながるというテレビ局の方々の強い思いに触れ、うなずきながら熱心に耳を傾けていました。

3 まとめ

講座が始まる前、子どもたちに「テレビ局の仕事とは何ですか」と質問したところ、「取材」「編集」「インタビュー」など、テレビを見ている時に気付くことが多く挙げられました。一方で講座を終えた際には、「視聴者に寄り添う」「周囲の環境にも配慮して」「明るい話題も取り入れながら」「(他の部署と)協力して番組作成を行う」など、別な視点から多様な見方で職業を捉え直している姿が見られました。情報を取捨選択して、「自分で考えられる人材に育ててください。」という講師の言葉が印象に残っていたようでした。

4 子どもの感想紹介

○テレビ局の仕事は新しく確実な情報を届ける大事な仕事だと感じました。(榴岡小 5年生)
○仕事の重要さ、大切さを知ることができました。今日のことを将来に生かしたいと思いました。(北六番丁小 5年生)

「ウエディングプランナーの仕事」活動紹介

- 講師氏名：佐野 真子 先生, 岡田 脩 先生, 佐々木 奈穂子 先生
所属：オーダーブライダル パレスへいあん

■ 参加児童数 13人

講座担当者 木村 慎吾

今回の講座では、広瀬通りにある結婚式場、パレスへいあん様より佐野真子先生、岡田脩先生、佐々木奈穂子先生をお招きし、「ウエディングプランナーの仕事」について体験を交えてお話を伺いました。

1 【講話】ウエディングプランナーのお仕事について

ウエディングプランナーとは「新郎新婦様の“けじめ・おひろめ・感謝”の想いを結婚式にお呼びするゲストに伝わるように、様々なスタッフへ指示を出す役割となる仕事」だそうです。決して一人で完結する仕事ではなく、たくさんのスタッフの団結力とチームワークで、素敵な結婚式が実現するのだということが分かりました。



2 【体験実習】ウェルカムボードをつくってみよう

結婚式でゲストを招くときに必要なウェルカムグッズのひとつでもある、“ウェルカムボード”のワークショップも行いました。児童たちは、講座の終了時間ギリギリまで集中して取り組んでいました。出来上がった作品も可愛らしものばかりで大満足の表情でした。



3 質疑応答から

Q. ウエディングプランナーになるために必要な資格などはありますか？

A. 必ず必要な資格はありません。

ですが、様々な検定を受け、資格を取得しておくことで仕事に活かします。

4 まとめ

ウエディングプランナーは、新郎新婦様と一緒に、ゲストの喜ぶ料理はどれか、プレゼントはどんなものにしたらいいか、みんなが笑顔になるのはどんなことか、たくさん時間をかけて考えるそうです。それぞれ年齢や生まれたところ、新郎新婦様の出会ったきっかけ、家族構成、好きなものがまったく違うので、様々な方と深くかかわることで「人を想う気持ちと考える力」を学ぶことができたと話していました。聞いている人たちに、佐野さんの仕事に向き合う真摯な姿勢が伝わったことと思います。



5 児童の感想紹介

○新郎新婦さんが喜んでるところを想像したら、ウエディングプランナーになってみたいと思いました。 (古城小 5年生)

○お客様の笑顔や幸せを大切にしたい、とてもすてきなお仕事なのだなということが分かりました。 (長町小 6年生)

「航空管制官の仕事」活動紹介

■ 講師氏名：三上 賢司 先生, 鈴木 千恵 先生, 大窪 秀八 先生

所属：国土交通省東京航空局 仙台空港事務所

■ 参加児童数 17人

講座担当者 武田 吉照

3名の先生は普段、仙台空港の管制塔を中心に、航空機の離着陸の管理や上空での航空機の誘導などの仕事を主に行っています。講座当日は学校の先生も顔負けの進行で、常に子どもたちの興味や関心を引きながら、わかりやすく、おもしろく、そして丁寧に、航空管制官という仕事や働くことの意義についてお話いただきました。

1 航空管制官ってなに？

まずは航空管制官という仕事のイメージを子どもたちから引き出しました。「自動車と飛行機の違いは？」と問われたことで、「航空管制官＝空の信号機」というお話が、どの子どもにもしつかり浸透したようです。次第に、空港内や上空を「見る」、航空機が発する「順番を決める」といった具体的な仕事内容が紹介されていきました。パワーポイントのスライド上で実際に航空機を動かすシミュレーションを行うなど、子どもたちは終始夢中になって講師の先生のお話に耳を傾けていました。



2 どうして私が航空管制官に？

ここでは、3名の先生より航空管制官を目指した理由をお話いただきました。「管制塔から飛行機を見てみたい」「飛行機に関する仕事がしたい」「パイロットへの夢から方向転換し、航空管制官の道へ」などそれぞれの志望理由があり、子どもたちは真剣な表情で、とても興味深そうに話を聴いていました。



3 質疑応答から

「パイロットとの会話のやりとりで気を付けていることはありますか。」という質問がありました。これについて、「簡単にわかりやすく、相手に誤解を与えないことを一番に考えないといけない」というお話をいただいた上で、「状況に応じて日本語や専門的な英語を使い分けている」という、現場の状況にあった具体的なことを教えていただきました。普段から航空機に対する興味、関心の高い児童が多かったためか、その他専門的なことについての質問が多く寄せられました。

4 まとめ

「働くうえで大変なこと」というテーマでは、「正解がない」「目に見える成果が得られない」「絶えず航空機の様子を見守るため緊張の連続である」というお話をいただきました。ただ、そういった苦労は同時にやりがいでもあるということ、子どもたちは3名の先生のお話からよく理解できたようです。「働く」ということの意義について理解を深められた時間となりました。

5 児童の感想紹介

○正解のない中、自分で色々と決断するのは大変だと思った。 (八乙女小 6年生)

○航空管制官への道のりや実際の役割を知ることができて、とても充実した講座だった。自分の将来の夢も広がったので良かった。 (宮教大附属小 5年生)

「水族館の仕事」活動紹介

- 講師氏名：森田 菜緒 先生, 田中 悠介 先生 所属：仙台うみの杜水族館
 ■ 参加児童数 30人 講座担当者 鈴木 峻

毎年受講者数の多い「水族館の仕事」。今年も仙台うみの杜水族館からお二人の講師をお招きして、水族館に求められる役割やお二人の仕事にかける思いなどについてお話いただきました。講座の途中には、海の生き物たちの能力について体験してみる時間もあり、参加した児童は、楽しみながら学ぶことができました。

1 水族館に勤めるまで

森田さんは小学校時代、習っていたスイミングスクールの選手育成コースに入り水泳に励んでいました。そして、イルカのトレーナーに憧れ、「将来の夢はイルカのトレーナー」と小学生の時から書いていたそうです。田中さんは、パイロットや漫画家、教師に憧れていましたが、愛犬家だったこともあり、獣医を目指すことになりました。お二人とも自分が好きなことを追い求めて今のお仕事に就かれていることが分かりました。



2 4つのチーム

仙台うみの杜水族館は、「パフォーマンスチーム」「海獣ふれあいチーム」「魚類チーム」「水処理チーム」の4つのチームに分かれて仕事をします。森田さんが所属するパフォーマンスチームでは、発声やダンスの練習だけではなく、生き物たちの体重測定や点眼（目薬をさす）、歯磨きといった健康管理も欠かせません。普通に入館しただけでは見ることで見ることができないスタッフルームや、生き物たちの様子を動画や写真でたくさん見ることができました。



3 質疑応答から

Q. イルカの水槽掃除はどうやってやるのですか。

A. 好奇心が強い大きい動物が生きている水槽は、動物たちの場所を移動して掃除します。

Q. 大水槽には大きい魚も小さい魚もいますが、食べられちゃったりしないのですか。

A. 食べられることもありますが、ちゃんと餌をあげているので、食べ尽くされることはありません。安心してください。

4 まとめ

水族館では、生き物のお世話だけではなく、種の保存や様々な調査研究も担っており、そこには生き物に対する興味関心、好きという気持ちが大切であること、これから大人になるまでの時間は、その気持ちを大切に育てる時間にしてほしいということをお話いただきました。最後に、「いつでもみなさんの力になりたいと思います。」と優しい言葉で締めくくられました。

5 児童の感想紹介

○私も、大好きなものと関われる仕事を見つけていきたいです。(八木山南小 6年生)

○水族館は思ったとおり、たくさんの努力があることが分かりました。(東二番丁小 5年生)

「薬剤師の仕事」活動紹介

■ 講師氏名：柝窪 克行 先生 所属：仙台オープン病院

■ 参加児童数 20人

講座担当者 小野 耕一

病院の薬剤師をお招きして、仕事の実際や薬剤師になるための方法を教えていただきました。体験活動では、調剤の実技として塗り薬の詰め方や点滴用薬剤の混ぜ合わせなどを行いました。

1 薬剤師になるために

2006年の4月から薬学部のある大学に6年間通うことが必要になりました。大学の4年間で薬学の専門知識を学び、5年次から病院で長期実習を行います。文系の大学とは違って自然科学系の専門科目が多く、結構ハードな内容だと言われています。薬剤師の国家試験に合格することで、薬剤師として働くことができるようになります。



2 薬剤師の業務

薬剤師はいろいろな場所で活躍できるやりがいのある仕事です。病院の薬剤師をはじめとして、調剤薬局、ドラッグストア、公務員、製薬会社の研究者など、それぞれの立場で薬に関わる方が大勢います。仕事をする上で大切なことは、「職場の仲間や患者さんとしっかりコミュニケーションをとること」だそうです。処方箋に不明な点があれば、医師に問い合わせ確認します。患者さんの命と健康に責任を持ち、正確に仕事を進めています。

3 質疑応答から

Q. 薬の処方を間違えないために、どのような工夫をしていますか。

A. 薬の処方機械化されています。

1人で調剤したものは、必ず別の人がダブルチェックして間違いを減らしています。

Q. 仕事をする上で大切なことは何ですか。

A. 同じ職場で仕事をしている者同士で、仲良くコミュニケーションをとることが大切です。また、思いやりをもって仕事をすることも大切です。



4 まとめ

受講した子どもたちは、薬剤師の仕事に興味を持って参加しており、講師の柝窪先生の話真剣に聞いていました。薬剤師の仕事が患者さんの命と健康に直接関係することから、責任感の伴うやりがいのある仕事であると理解したようです。また、職場の仲間や患者さんとコミュニケーションをしっかりとることが重要であることを教えていただきました。調剤の体験では、軟膏を詰めたり点滴用薬剤を混ぜ合わせたりして、薬剤師の活動の一部を経験し、仕事のおもしろさも感じる事ができました。

5 児童の感想紹介

○責任感や集中力が大切で、大事な仕事だということがわかりました。(榴岡小 5年生)

○薬剤師は苦勞が多く大変な仕事だけど、やりがいを感じられることもある。(鶴巻小 6年生)

○コミュニケーションをしっかりとすることで、患者さんも安心できる。(北中山小 5年生)

○薬詰め体験は、本当に薬剤師の仕事をしているみたいでおもしろかった。(原町小 6年生)

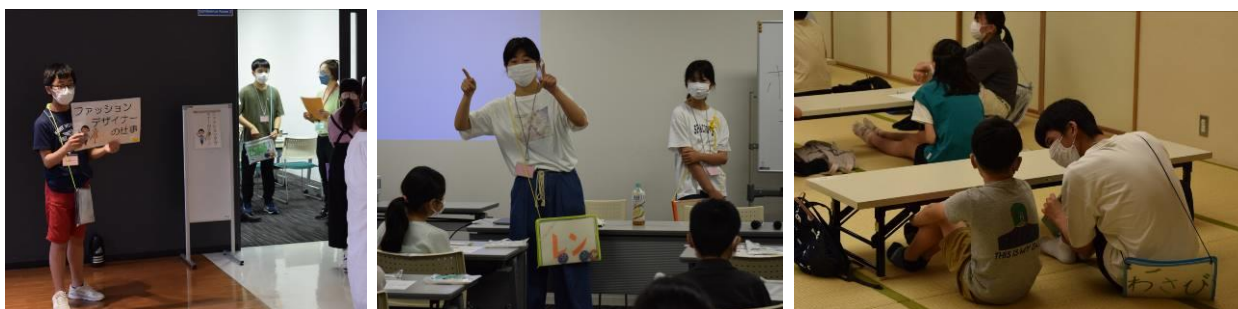
「仙台市ジュニアリーダー」活動紹介

■ 参加ジュニアリーダー（中学生・高校生）41人

担当者 佐伯 修一・細貝 和子

ジュニアリーダー（JL）は、青少年ボランティア活動の一環として、仙台市教育委員会の支援を受け、各市民センターを拠点として活動している中学生・高校生のことです。

現在、市内には38のジュニアリーダーサークルがあり、約300人が登録しています。子ども会をはじめとする地域団体からの依頼を受け、地域行事の際に子どもたちが楽しめるゲームやレクリエーションを企画・運営するなどの活動を行っています。



1 楽学プロジェクトでの活動内容

(1) 受講者の誘導・受付補助・整列補助

会場の入口付近での受講者の誘導や、受付での検温・消毒を行いました。また、受講者解散時の整列補助や誘導の補助なども行いました。

(2) 各講座の補助

各講座の初めに、参加者の緊張をほぐすために手遊びやクイズなどのアイスブレイクを行いました。また、講座中は受講者の見守り、講師の先生の補助、グループワークの手伝いなどを行いました。

2 参加したJLの感想から

- アイスブレイクは緊張したけれど、小学生が楽しんでくれていてよかったです。うまくいったことばかりではなかったけれど、この経験をこれからの要請に生かしていきたいです。
- 久しぶりにたくさんの小学生と触れ合うことができて楽しかったです。

3 スタッフ（講師）の感想から

- 受付から開講式が始まるまでの間の持たせ方、途中の水分補給やトイレ等の誘導、とても助かりました。

令和4年度 楽学プロジェクト委員名簿

	役職	氏名	所属
1	委員長	山口 哲男	楽学プロジェクト委員会
2	副委員長	遠藤 浩志	館小学校
3	副委員長	久保木 潤子	楽学プロジェクト委員会
4	副委員長	岡本 浩行	楽学プロジェクト委員会
5	副委員長	山口 裕子	楽学プロジェクト委員会
6	委員	丹治 重廣	楽学プロジェクト委員会
7	委員	加藤 真由美	楽学プロジェクト委員会
8	委員	近江 麻江	楽学プロジェクト委員会
9	委員	菅原 浩江	楽学プロジェクト委員会
10	委員	針生 真由美	楽学プロジェクト委員会
11	委員	阿部 英男	北六番丁小学校PTA
12	委員	笹平 雅文	榴岡小学校PTA
13	委員	佐藤 亜希	若林小学校PTA
14	委員	佐藤 真奈	長町中学校PTA
15	委員	早坂 孝一	将監中央小学校PTA
16	委員	勝又 真吾	上杉山通小学校
17	委員	奥山 祥彦	古城小学校
18	委員	門脇 駿	高森中学校
19	委員	伊世 貴志	錦ヶ丘小学校
20	委員	鈴木 峻	木町通小学校
21	委員	細貝 和子	生涯学習支援センター
22	委員	木村 慎吾	青葉区中央市民センター
23	委員	小野 耕一	宮城野区中央市民センター
24	委員	青沼 伸吾	若林区中央市民センター
25	委員	武田 吉照	太白区中央市民センター
26	委員	石井 淳史	泉区中央市民センター
27	委員	浅野 佑一	市民図書館
28	委員	沼尾 和弥	仙台市科学館
29	委員	大内 久美子	宮城野区中央市民センター(地区館)
30	委員	鹿野 由加里	宮城野区中央市民センター(地区館)
31	事務局	千葉 靖彦	学びの連携推進室
32	事務局	淀縄 ゆかり	学びの連携推進室
33	事務局	田村 修一	生涯学習課
34	事務局	勢藤 芳弘	生涯学習課
35	事務局	古谷 寛子	生涯学習課
36	事務局	門脇 美智子	生涯学習課
37	事務局	佐々木 貴幸	生涯学習課
38	事務局	黒田 涼子	生涯学習課

【発行】 楽学プロジェクト委員会
(事務局) 仙台市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課
〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目 5 番 12 号
仙台市役所上杉分庁舎 10 階
TEL 022-214-8887